

## 「ドアからドアへ 、インドの死因統計」

最近老化防止のためもあって、英字新聞を読んでいるが、たまたま下記のような記事が目に入ったので、何のことかと興味を持って読んでみて驚いた。以下はその記事のあらましである。

『夫が急に腹痛を訴えたので、妻が彼を病院に入院させてくれるように頼んでいたが、入院出来ずにそのまま夫は妻のそばで亡くなった。

インドでは死亡する人で、急病になっても、医師に看取られること無く死ぬ人が多い。出生、死亡を管理する当局によれば、毎年500万人の死亡者の70%は医師の立会(看取り)がない。

医師も無く、モニターも無く、病気の記録も無く、自宅などで死亡する人は、インドでは通常よく見られる光景である。死亡確認の為、国の調査官がドアからドアへ一軒、一軒、尋ね、家族に死亡確認のため、死亡時の状況を詳しく聞き取り調査をし、記録する。一年もたってからでは家族の記憶も確かでないことが多い。これでは死亡統計も死因統計も信頼が置けない。』

原子爆弾も作れ、高度の教育を受けたエリート階級も多いこの国で医療がこのような有様ではと驚かされる。勿論最先端の医療機器の整った病院もかなりあると思われるが、その医療を受けられる人は限られているのであろう。

昔(60年前)、米国の病院でレジデントとして立派なインド人医師と一緒に働いた記憶がある。

世界的にも医療、福祉に恵まれている欧州や、オーストラリア等先進国でも、癌で手術が必要になっても、病院の入院に何ヶ月待ちといった状態である。急病でも何時間も待たされることが多い。

米国でも最近まで無保険者が4千万人もあった。オバマ大統領になり、ようやく皆保険にはなったが、ほとんどが民間保険であり、日本とは全く事情が異なる。

先日、全国自治体病院協議会会長の邊見先生が講演で、日本の国民皆保険は、世界遺産であると言われたが全くそのとおりであると思う。世界で日本ほど優れた医療制度、いつでもどこでも、保険証一枚で医療機関にかかれ、入院治療を受けられる国は無い。

世界一の長寿国、健康長寿国でもある日本に、もっと誇りを持ってよいのでは。

ついでに平和憲法(日本国憲法第9条)も世界遺産にしては？戦後70年近く平和を守り、戦争をしていないのであるから。

平成 26 年 5 月 29 日

尼崎中央病院 理事長 吉田静雄